

ひと目でわかる被災図絵

【安政二卯十月二日大地震附焼場所】
木版合羽摺

安政江戸地震の際、類焼した場所が赤く色づけされている。御救小屋も記され、災害のあとでも飢えて死ぬものはなかったとされる。



2021年

9.1水 - 9.26日

【月曜定休】* 入場無料

11:00 - 19:00

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により開廊日や営業時間を変更する可能性があります。ご来訪の前に必ずギャラリーのHP及びTwitterをご確認ください。

お江戸の厄災

東京展

所蔵災害資料

あいおいニッセイ同和損保

伝えるー災害の記憶

頼みの綱は明神さま



錦絵《鯨を押える鹿島大明神》安政2年(1855)か地震を起こす大鯨を押さえこめるのは鹿島大明神とされていた。それを頼みと群がるのは大工に左官ばかりではない。親を亡くした子供たちにも幸運を。



火事

雷

地震

歌川貞秀《四ツ目ヨリ天神川通り堤上ニテ江戸ノ方ヲ見ル図》安政2年(1855)

震災直後の江戸は、火の海の中



UNPEL GALLERY



今もありえるリアル旋風

本資料は、あいおいニッセイ同和損保の前身の一社、同和火災海上保険の初代社長廣瀬鉞太郎（ひろせえつたろう）が収集した、18～20世紀初頭の我が国災害にまつわる約1400点の資料です。本展ではその中から江戸周辺の災害と現在のコロナ禍とも重なる疫病に関する資料38点をご覧ください。

地震、台風、雷等に加え大火や疫病等、当時の人々の生活と生命を脅かした災害の生々しい記録と共に、前向きに復興に取り組む人々の様子が伝わってきます。

私たちはどの様に災害と向き合ってきたのか？苦境にあるとき人間の心はどのような方向に向かうのか？今回の展示が災害に備える事の重要性を見つめ直す一つのきっかけとなれば幸いです。



錦絵二枚続《呉服橋外桶町河岸つむじ風之図》安政5年(1858)

このときの大火は、神田から日本橋近辺の町々を焼き尽くした。呉服橋で起こった巨大旋風が火災に拍車をかけた。このギャラリーのあった所も被災したから、他人事ではない。

錦絵《鯨筆を震》安政2年(1855)
鯨書を有難がっているのは鯨のひと震りで儲たインフラ整備関係者。その影で苦しむ被災者が障子越しに映しだされる。世情の光と影のドラマ。



鯨のひと震りが生んだ光と影

資料研究に携わった先生方による「災害の記憶展」開催記念トーク(動画)をギャラリーにて公開
 ■東京大学地震研究所/加納靖之准教授、大邑潤三助教 ■京都文化博物館/有賀茜 学芸員



- 会 期 / 2021年9月1日(水)～9月26日(日)
- 主 催 / UNPEL GALLERY
- 特別協力 / 京都文化博物館(災害資料寄託先)
- 企画協力 / NHK サービスセンター
- 後 援 / 中央区、中央区観光協会
- 資料提供 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社



UNPEL GALLERY (アンペルギャラリー)
 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-1-6
 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル1F
 TEL/03-3548-7780 FAX/03-3548-7781
 E-mail/tsubaki@un-pel.com
 URL/https://unpel.gallery



- 東京メトロ 銀座線/東西線/都営浅草線 日本橋駅B3出口 徒歩2分
- JR 東京駅八重洲北口 徒歩5分